NIE特集
Newspaper In Education
毎月第2・4火曜日発行

どきどき小学生

鳥矢崎小

学校名　栗原市立鳥矢崎小学校　　校長　内海　茂夫
所在地　栗原市栗駒鳥沢山王下54の81　　児童　63人
電話　0228（45）2182

エミシの豪族が眠る

鳥矢ケ崎古墳群の歴史探れ！

人骨や刀、帯金具出土

知り隊

鎌田さん（右）から説明を受ける子どもたち

私たちの住む鳥矢崎の猿飛来地区には、宮城県指定史跡の「鳥矢ケ崎古墳群」が広がります。6年生になり、社会科で日本の歴史について学習を進めてきた私たちは、地域の歴史について理解を深めようと、この古墳群について調べることにしました。鳥矢ケ崎史跡公園保存会会長の鎌田金雄さんが、詳しく教えてくださいました。

鳥矢ケ崎古墳群は小高い丘の上にあり、遊歩道のある史跡公園として整備されています。発見時のエピソードは大変おもしろく、私たちは、鎌田さんの話を、興味深く聞きました。

鳥矢ケ崎古墳群が発見されたのは明治41（1911）年です。小野寺久五郎という大工さんがいて、猿飛来での仕事の帰り、神社の近くに来たところで切り株につまずき、下駄が脱げてしまいました。「暗闇の中、手探りで下駄を捜していたら、手が土に埋もれた刀の先にふれたのだろうです。翌日、その場所を掘り起こしてみると、鉄製の鏃や鉾、茶碗などが4、5ほど出てきました。

昭和37（62）年に、仙台の大学の先生に調査を依頼した結果、今から1200年ぐらい前の古墳群であると判明しました。その後、本格的な発掘調査も行われ、44基の古墳のうち基を調査したところ、1号墳から2号墳からは人骨や刀、金銅製帯金具などが出土しました。

「帯金具は、位の高い人だけが使用を許された『物』と鎌田さんは言います。その当時、この地方で位階を授けられていたのは伊治公砦麻呂という都司しかいなかった。エミシの有力な豪族でもあり、この古墳は伊治公砦麻呂一族の墓であると結論づけられています。

◇　◇

私たちは、取材をすることで地域の歴史を探るための「扉」である鳥矢ケ崎古墳群の大切さにあらためて気づきました。

猿飛来地区では、約160戸のほとんどが史跡保存会会員となり、公園の除草作業や清掃活動に取り組んでいます。私たちも9月には全校児童で史跡公園の清掃活動を行い、歴史を守る手伝いをしていく予定です。

文・菅原杏華、菅原龍司、渕上雅史、三浦裕介（6年）

うきうきキャンバス

たてわりリレー
1年・二本木愛惟

玉入れ楽しかったよ
2年・菅沼凌紀

大きなうちゅう人　3年・佐藤光将

習字「成長」　6年・渕上雅史

ぱっくり開いたよ
4年・阿部莉来

花壇のチューリップ
5年・及川日路

教え隊

昨年制定した「六訓」

栗原の教育引き継ぐ

鳥矢崎小には「鳥矢崎の子六訓」があります。「だれにでも親切に」や「礼儀正しく」などの六つで、昭和初期に「校訓」や「学習訓」などの教えが存在した栗原の教育を大切に引き継いでいこうと、昨年3月に制定されました。

全校朝会や集会で6年生が中心となり、全校児童で六訓を唱和しています。今では全員が暗唱し、いつも六訓を心に留めて生活するようになりました。月末の全校生活指導の時間には、どの学年からも進んで自分の頑張りを発表する姿が見られます。

文・大場一樹・糟川莉奈（6年）

「六訓」を胸に6年生が毎朝、校旗を掲揚している

編集後記

この新聞作りを通して、あったため自分たちの地域の良さや大切さに目を向けることができて良かったです。

鎌田さんのご協力を得て取材した鳥矢ケ崎古墳群は、鳥矢崎の歴史を物語る「地域の宝」だということが分かりました。この地域には、まだまだ私たちの知らないすばらしい財産がありそうです。これからの学習の中で、新しいジャンルの調べ学習にも取り組んでいきたいです。

1年前、震災の栗原を心配してくださった皆さまたちに、元気に活動する「鳥矢崎の子」の様子と感謝の気持ちが伝わるとうれしいです。

〈編集委員〉菅原龍司、渕上雅史、菅原敦史、菅原検吾、大場一樹、糟川莉奈、阿部仁美、沢口はるな、菅原杏華、三浦裕介、佐藤杏那、青沼凌輝（6年）

題字デザイン　佐藤杏那（6年）

〈指導教諭〉熊谷かをる

言い隊

■縦割り活動 絆強める■

僕たちの学校では、全校児童数63人という小規模の良さを生かし、全学年を6班に分けての縦割り活動に取り組んでいます。縦割りリレーや縦割り遊び、縦割り給食などさまざまで、特に縦割りリレーは、メンバーが協力して作戦を立て、心を一つにしてゴールを目指します。チーム新記録が出ると、みんなで喜びを分かち合います。運動会では、学年が入り交じってバトンをつなげる姿に地域の方々からも大きな声援をいただきました。縦割り活動は、学年の枠を超えて絆を深める大切な時間です。これからも、ふれあいを大切にし、みんなの良さを認め合う場にしていきたいです。

（6年・菅原敦史）

■防災を意識して生活■

岩手・宮城内陸地震から1年以上すぎ、私の地区は普通の生活を取り戻しました。しかし、市内にはまだ行方不明者や震災のためについ思いをしている方が多数いるのです。私の大好きな栗駒山も崩落で美しい景観が失われてしまいました。今も、山を見上げるたびに、くやしさや悲しさがこみ上げてきます。

宮城県中地震が再び来ると予想されていますが、二度と悲しい思いをしたくありません。そのために、先月は校内の避難訓練や消防署での地震体験で防災の心構えを新たにしました。栗原にまた笑顔と緑が戻ってくることを祈りながら、常に防災を意識した生活を送っていきたいと思っています。

（6年・菅原唯香）

次回（8月11日）は、横山小（登米市）と、山王小（多賀城市）です。
新聞作りに参加する小学校を募集しています。申し込みや問い合わせは河北ＮＩＥ推進事務局022（211）1331へ。